

## 第 47 回 東京都遺跡調査・研究発表会

### 視聴者からのご質問への回答

#### 高輪南町遺跡

##### 【質問】

SI74 にて地床炉から粘土床炉に作り替えたとありますが、その他の竪穴建物の炉の種類にはどのようなものが見られたのでしょうか？同様に作り替えたり、またほかの種類が使用されたりしていたのでしょうか？

##### 【回答】

高輪南町遺跡の弥生時代の竪穴建物跡においては、ほとんどの炉は地面を掘りくぼめただけの場所で火を焚いた地床炉でした。

SI74 以外の竪穴建物跡では炉を作り替えたとみられる痕跡は検出されていませんが、近隣に位置する SI72・73 では、炉の覆土に被熱した白色の粘土が混じっているのが確認されています。

全面的な炉の作り替えではないものの、地床炉を粘土によって補修していたのではないかと考えられます。

(東京都埋蔵文化財センター 橋本 望)

#### 染地遺跡

##### 【質問】

調布染地遺跡について、古墳時代前期、63 号住からの土製支脚の出土や浮き置きの甕を使用していた点ですが、そのような使用例はどの地域に多く見られるのでしょうか？

##### 【回答】

土製支脚は、近畿・山陰・四国・九州など、主に西日本地域に分布していることが知られています。東日本地域でも、千葉県・茨城県・福島県などの太平洋側で見つかります。また、現在調査中ですが、足立区の花畑遺跡でも出土しているようです。

**【質問】**

古墳後期の長煙道型のカマドを使用する集団はどのように分布しているのでしょうか？

**【回答】**

現在調べているところですが、古い時期のものは神奈川・埼玉・群馬で確認されており、もう少し時代が進むと東北地方南部にも広がるようです。

(東京都埋蔵文化財センター 間 直一郎)

## 国史跡八王子城跡

**【質問】**

廃棄された磁器や陶器は復元が難しいほど細かく砕かれていたとのこと。お示しいただいた画像でも、欠けたから捨てたのではない人為が伝わってきました。戦乱で破壊されたのはそうだろうな、とは思えるのですがなぜ、わざわざそこまで手間のかかる細かく砕くという行為が必要だったのか不思議です。単に投げた砕けばもっと大きな破片も混ざっていそうです。きれいすぎるそろった破片画像からは何か異様な意思を感じました。他の遺跡でも同じような出土状況なのかなと、お教え願います。

**【回答】**

陶磁器類は特に磁器は明（中国）からの輸入品になり、貴重なものとなります。江戸時代に肥前で磁器がやかれるようになって、割れた製品は金や漆で継いで使われています。また戦国時代より古い時代でも、割れた茶碗を鋸で継いで使用しているものもあります。

単純に割っただけでは、繕いをして使用することができるので、細かく割って敵に渡したくないという意識があったのかと思います。

**【質問】**

頂上の本丸の調査はすでに行われたのでしょうか。何か建物遺構が残っているのでしょうか。

**【回答】**

本丸部は小宮曲輪と松木曲輪と呼ばれている曲輪の間を昭和33年と昭和54年に調査を行っています。

この時は、遺構は確認されていませんが、明（中国）から輸入された磁器や国産の陶器が出土しています。特に磁器の水差が出土しています。

（八王子市教育委員会 村山 修）